【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第６区分
【発行日】平成19年4月12日(2007.4.12)

【公開番号】特開2006-27691(P2006-27691A)
【公開日】平成18年2月2日(2006.2.2)
【年通号数】公開・登録公報2006-005
【出願番号】特願2004-210950(P2004-210950)
【国際特許分類】
Ｂ６７Ｄ　1/14　(2006.01)
Ｂ６５Ｄ　53/02　(2006.01)
Ｂ６７Ｄ　1/07　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ６７Ｄ　1/14　Ｚ
Ｂ６５Ｄ　53/02
Ｂ６７Ｄ　1/08　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成19年2月26日(2007.2.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
洗浄液を収容する容器本体と、この容器本体の口部に取り付けられ、ディスペンスヘッドを着脱可能に装着する装着体と、を具備し、上記ディスペンスヘッドを介して供給される圧送ガスを容器本体内の洗浄液に加圧し、加圧された洗浄液をディスペンスヘッドを介してディスペンサ側に供給する、ディスペンサ洗浄用容器において、
上記装着体に、上記容器本体の口部に圧接されるＯリングと、このＯリングを収容する凹溝と、装着体の側部を貫通すると共に、上記凹溝と連通する少なくとも１つの切欠溝とを具備する減圧機構を形成し、
上記容器本体内に通常以上の高い圧力の圧送ガスが供給された状態において、上記Ｏリングの一部が上記凹溝から切欠溝に弾性変形することで、容器本体内の高圧な圧送ガスを外部に排出可能に形成してなる、ことを特徴とするディスペンサ洗浄用容器の安全装置。
【請求項２】
請求項１記載のディスペンサ洗浄用容器の安全装置において、
上記切欠溝を、凹溝の対向する部位に形成される一対の周方向に沿う長溝に形成する、ことを特徴とするディスペンサ洗浄用容器の安全装置。
【請求項３】
請求項１又は２記載のディスペンサ洗浄用容器の安全装置において、
上記Ｏリングが上記容器本体の口部上面に配置されると共に、上記切欠溝の下面が、上記容器本体の口部上面より低い位置にある、ことを特徴とするディスペンサ洗浄用容器の安全装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】

【０００７】
この発明において、上記切欠溝を、凹溝の対向する部位に形成される一対の周方向に沿う長溝に形成する方が好ましい（請求項２）。また、上記Ｏリングを上記容器本体の口部上面に配置すると共に、上記切欠溝の下面を、上記容器本体の口部上面より低い位置にする方が好ましい（請求項３）。